

共汗でつくる新「京都市動物園構想」

いよいよこの秋

「もうじゅうワールド」着工!!

来春オープン  
(予定)



★ツシヤママネコ室

絶滅危惧種であるツシヤママネコの保護増殖事業に参加します。ツシヤママネコが頭上で休む姿が御覧になれます。

★ジャガー室

頭の上にジャガーが寝そべっている！近くでその美しい模様や足の裏が観察できるかも？

★トラ舎

3つの展示場を観覧通路の真上を通るチューブでつなぎました。ネコ科最大のトラがチューブを行き来する姿が見られます！

★ライオン室

ガラスの向こうに百獣の王ライオンが！近くでその迫力を堪能できます。

できごと

おめでた！



「京都市動物園生まれのゲンキ(メス)」

「恩賜上野動物園生まれのモモタロウ(オス)」

☆ニシゴリラのゲンキが妊娠しました。出産予定は平成23年12月19日～平成24年1月8日です。ゲンキは日本で飼育しているニシゴリラの中で唯一の三世で、今度生まれてくる子どもは、日本初の四世となります。また、日本の動物園で生まれたゴリラ同士の子供も生まれてきます。温かく見守ってくださいね。

プレゼント

☆7月18日、暑～い夏に、冷た～い氷のプレゼントです。氷を簡単に足で割ってしまうゾウや、氷に乗っかるアカゲザル… 涼しいひとときでした。



安らかに

★6月8日、タンチョウの綱野(アミノ)が肺炎・出血性腸炎のため死亡しました。昭和49年12月8日に京都市動物園に来園して以来、21羽の子をもうけ、希少なタンチョウの繁殖に貢献しました。長い間、ありがとう。



おとぎの国

カメ池・鳥類舎が新たに完成！



☆おとぎの国の仲間が勢ぞろいしました！二つのグラウンドがつながり、オウムやフクロウも新居に引越します。



「跳ね橋を渡るヤギ」



「新しいオウムの小屋」





# ＝吊り橋プロジェクトに参加して＝



ホップ

ボルネオオランウータンのホップ（オス、30歳）のふるさとであるマレーシアのボルネオ・サバ州に行ってきました。

京都市動物園生まれのホップにとっては、見たことのない生息地で、私が見て、聞いて、感じたオランウータンの状況と保全活動について紹介します。

ボルネオ島は、世界に3番目に大きい島で、面積は日本の約2倍、豊かな熱帯雨林が、生物多様性を生み出しています。

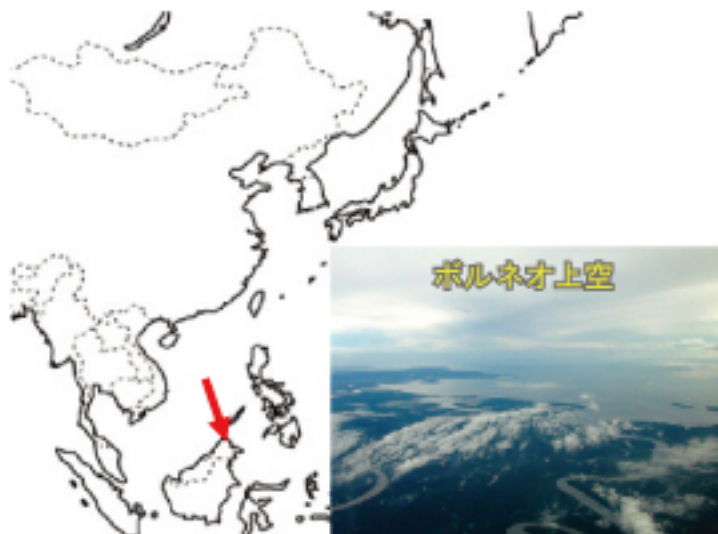
しかし、アブラヤシのプランテーション開発や森林伐採により、その豊かな森が減少しています。そして、多くの動植物の生息環境が脅かされています。



キナバタンガン川



一面のプランテーション



ボルネオ上空

一見すると緑豊かな印象を受けますが、よく見ると熱帯雨林ではなく一面アブラヤシのプランテーションになってしまっています。

## 現状の現況図



BCTジャパン通信より引用



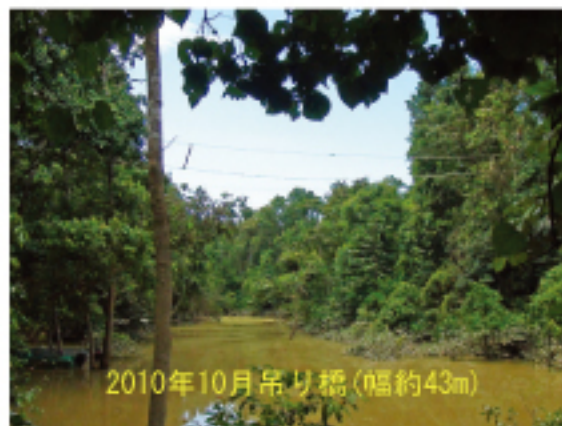
日本から運ばれたホース

吊り橋の材料には、消防ホースを使用しています。

動物園では廃棄される消防ホースを飼育環境改善のために再利用しており、こうした動物園での技術を野生下へ還元（域外保全→域内保全）するとともに、再利用することでエコロジーの啓発にもつながると考えているからです。



ホップの室内での利用



2010年10月吊り橋（幅約43m）

2010年11月には、吊り橋を使ってテナガザルが移動したことが確認され、オランウータンが移動することも期待されましたが、雨季の影響で水位が4m以上も上昇し、支柱にしていた右岸の樹の根が水中で動いたため、吊り橋が倒壊するという事態が起きました。



吊り橋を渡るテナガザル



タワー（高さ約7.5m）

そして、2011年5月、倒壊した橋の回収、新たな橋の設置、キナバタンガン川流域の架橋候補地の視察を行いました。

新たな橋を設置するにあたり、倒壊した橋の右岸には、条件の合う樹が無かったため、鉄パイプでタワーを作り、橋を支えました。

作業は地域住民とともに行いましたが、彼らの考え方や生活環境なども経験することが出来たことは、そこで暮らす人と動物の共生について理解するために意義があることだと感じました。



タワーの水平を計る作業



Bridging the gap for orang-utan migration

こうした活動は、マレーシア国内でも報道され、熱帯雨林で進行する生物多様性喪失への関心を高め、森をつなぐための活動の必要性を訴えています。



アブラヤシ

日本にいと遠い世界のように感じてしまいがちですが、アブラヤシから作られるパーム油は日本にも輸入され、冷凍食品やスナック菓子などに使われています。つまり、マレーシアで森が減りプランテーションが進んでいることは、それを消費している日本人も無関係では無いのです。

ただし、現地ではエコツーリズムに携わりながらも、定期的な収入が確保できるアブラヤシを栽培している現状もあります。

こうした中、「持続可能なパームオイルの円卓会議」が設立され、環境に配慮した生産の取組も進められています。

このような活動を通じて、より多くの人々が関心を持つことで、野生下で起きている様々な問題が改善され、オランウータンが森を自由に行き来し、餌の確保や正常な繁殖が可能となり、生息環境が改善されることを願います。



果実を食べるオランウータン



2011年5月吊り橋（幅約54m、水位が上昇している）

動物園は「野生への窓」として、展示動物を通して、その動物の生息地での状況を伝え、それを環境教育活動につなげていくことが大切であると考えています。

その取組の一つとして、この吊り橋プロジェクトで得た経験や知識を多くの方に伝えられればと思います。

そして、私たちの生活とも実は密接につながっている事を知り、何が出来るか？を考えるきっかけになればと思います。

この活動に参加する機会をいただいた関係者の皆様に感謝するとともに、私自身の今後の活動に生かしたいと思います。ありがとうございました。

飼育課 和田晴太郎



## ZOOスポット 73

今回は動物園総務課3年目の大倉悠里(以下「大」)と2年目の田畑朱希奈(以下「田」)のアラサー女子の対談形式でお伝えします。

大「毎日家庭を犠牲に遅くまで残ってがんばっている田畑さん。(笑)動物園に配属されての感想は？また、配属されて良かったと思うことはありますか？」

田「動物に囲まれながらの楽しい日々を想像していましたが、慣れないことばかりで右往左往！あっという間に1年が過ぎました。」

大「京都市動物園にいるオススメ動物は？」

田「今、類人猿舎の住人が気になっています。ゴリラの出産やチンパンジーたちの人間模様？！お部屋好きオランウータンの外の世界への挑戦などなど…。みんな性格がそれぞれで面白いですね。」

田「動物園には、飼育員や獣医のほか、私たちのように、運営に関係する事務をする人がいます。私はお金に関することを担当しています。大倉さんはどのようなことをしていますか？」

大「主に庶務担当をしています。職員の休暇関係やアルバイトの採用業務等を行っています。職場の雰囲気はいかがですか？」

田「一人一人が動物のこと、来園者のことを真剣に考え、いきい



きと仕事をしていて良い雰囲気だと思います。」

大「現在進行中の動物園整備構想について、ズバリ！！どんな動物園にしたいですか？」

田「大人も子どもも、動物や自然について学んだり、発見したり、体験したり、のんびり過ごしたりと、様々な楽しみ方ができ、また来たいと思えるような魅力ある動物園にしたいと思っています。」

田「最後にひとことお願いします！」

大「動物園では、他では経験できないような業務や出来事があり、とてもやりがいのある職場です。職員一同、お客様に楽しんでいただけるよう精一杯がんばってまいりますので、新しく生まれ変わる動物園をどうぞ楽しみにしててください！皆様の御来園を心からお待ちしております。」

### 飼育員のひと工夫！

飼育員が、動物たちや見に来ていただいているお客さんのために、いろんな工夫をしているのでのぞいてみましょう！

其の9

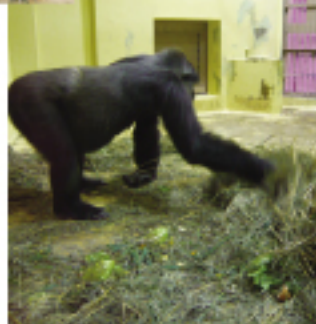
今回は類人猿舎のニシゴリラ室内展示室です。

ゴリラやチンパンジーなどの類人猿の仲間たちは知能が高く、退屈な時間が長くなると「吐き戻し」「食糞」などの異常な行動が現れることがあります。その行動を少なくするために時間をかけて餌を食べさせる工夫を行っています。

天井の柵の上にある餌を運動しながら取り出す。



ワラの中に隠した餌をかき分けながら一生懸命探す。



枝を使って中の餌を取り出す「フードキャッチャー」に真剣に取り組む。